

## N1 第 41 课 古典文学爱昆虫的千金 2 (语法)

ひめぎみ きょしよく はいじょ 姫君は、虚飾も排除します。「人間たるもの、すべて自然のままがいいのだ」と彼女は主張し、まゆげ ぬ まゆずみ まゆ か 眉毛を抜き、眉墨で眉を描くという当時の女性のような化粧をしない。自然のままの黒々とした眉をしている。お歯黒も面倒だし不潔だからと言っつけない。現代人からすると、姫君の言うことのほうが科学的で納得できます。でも、当時の常識からは外れている。常識は時代によって異なるのですね。

(山口仲美『日本語の古典』岩波書店による)

大小姐还排除了粉饰。她主张：“作为人类，什么都是自然最好。”当时女性的化妆是把眉毛拔了以后用眉粉描眉，大小姐也不做。她就是自然状的黑眉毛。她说把牙齿涂黑也觉得麻烦和不干净，所以不涂。从现代人来看，大小姐说的话更有科学性，能够心服口服。不过，脱离了当时的常识。常识是时代不同而不同啊。

### 语法

#### 1. 一たる

- \* 解释：とある(引号+有)的古语
- \* 意思：1. 等号(名+たる+名词)  
2. たる→とある→ている

#### 1. 国民の生活をよりよいものにすること、それが政治家たる者の使命だと思う。

- \* 我认为提高国民的生活质量是政治家的使命。
- \* 国民：(0, 名) 国民，公民
- \* よりよい：(3, 形) 更好的
- \* 政治家：(0, 名) 政治家
- \* 使命：(1, 名) 使命

#### 2. 警官たる者、そのような犯罪に関わってはいけない。

- \* 作为警察就不应该涉足那样的犯罪。
- \* 警官：(0, 名) 警察，警官
- \* 犯罪：(0, 名) 犯罪
- \* 関わる：(3, 自五) 有关系

#### 3. 春は曙、やうやう白くなりゆく、山ぎは少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

\* 春，曙为最。逐渐转白的山顶，开始稍露光明，泛紫的细云轻飘其上。

\* 曙<sup>あけぼの</sup>：(0, 名)曙，曙光

\* やうやう：(0, 副)ようよう→ようやく→渐渐

\* 山ぎは<sup>やま</sup>：(0, 名)山際<sup>やまぎわ</sup> 天际，山脚

\* あかりて：(0, 自五)<sup>あか</sup>明る 放明

\* 紫<sup>むらさき</sup>：(0, 名)紫色

\* 雲<sup>くも</sup>：(1, 名)云彩

\* たなびく：(3, 自五)(云，霞等)飘忽，缭绕

## 2. ～から

\* 解释：从→from→脱离，离开

1. 子どもが自室<sup>じしつ</sup>に閉じこもる<sup>と</sup>のは親<sup>おや</sup>から独立<sup>どくりつ</sup>した自分<sup>じぶん</sup>だけの精神的<sup>せいしんてき</sup>世界<sup>せかい</sup>を持ち<sup>も</sup>始めた<sup>はじ</sup>ことの

現<sup>あらわ</sup>れだろうから、悪い<sup>わる</sup>いとばかりは言<sup>い</sup>えない。

\* 孩子把自己关在自己的房间里这一行为，是开始拥有脱离父母而独立的自我精神世界的表现，所以不能完全说是不好的。

\* 自室<sup>じしつ</sup>：(0, 名)自己的房间

\* 閉じこもる<sup>と</sup>：(4, 0, 自五)闭门不出；封闭

\* 独立<sup>どくりつ</sup>：(0, 名/自サ)独立

\* 精神的<sup>せいしんてき</sup>世界<sup>せかい</sup>：(6, 名)精神世界

\* 現<sup>あらわ</sup>れ：(0, 名)体现，表现

2. 自分<sup>じぶん</sup>の体<sup>からだ</sup>を食<sup>た</sup>べに来<sup>く</sup>る動物<sup>どうぶつ</sup>から身<sup>み</sup>を守<sup>まも</sup>る必要<sup>ひつよう</sup>がある。

\* 有必要防备来吃自己的动物。

3. 無理<sup>むり</sup>に友達<sup>ともだち</sup>に好<sup>す</sup>かれようと思<sup>おも</sup>わず、友達<sup>ともだち</sup>から孤立<sup>こりつ</sup>してもいいと腹<sup>はら</sup>を決<sup>き</sup>める。

\* 不想非让朋友喜欢自己，下定决心即便被朋友孤立也无所谓。

\* 孤立<sup>こりつ</sup>：(0, 名/自サ)孤立

\* 腹<sup>はら</sup>を決<sup>き</sup>める：(2+0)下定决心，毅然决然